

和顔愛語

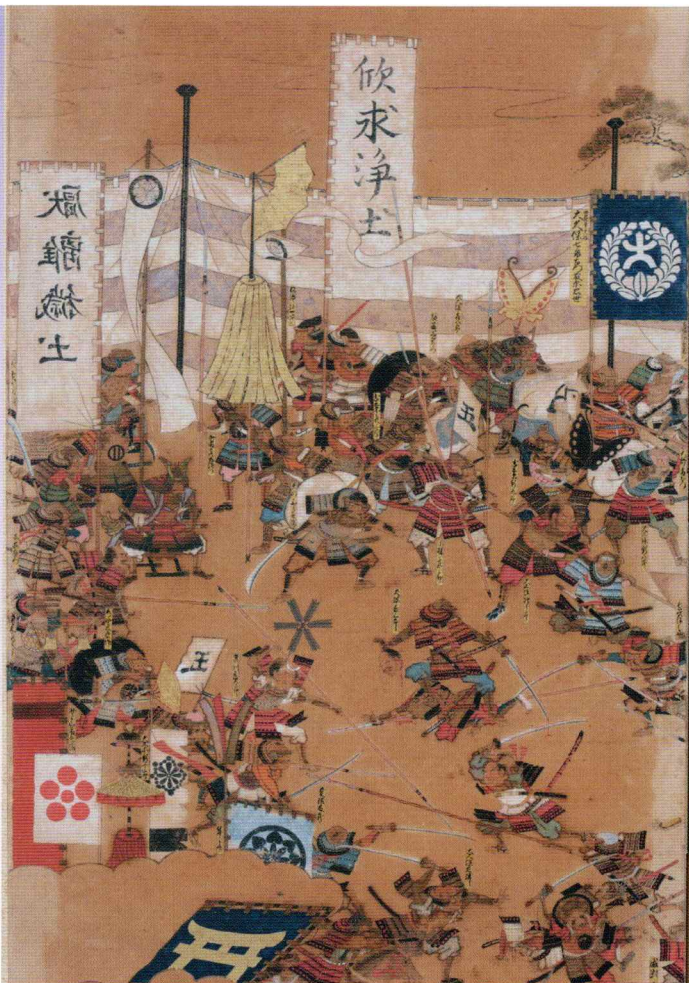
寺報

令和5年3月号

家康が 求めた 厭離穢土 欣求浄土

えんりえど

こんぐじょうど



姉川合戦図屏風 福井県立歴史博物館所蔵

大河ドラマ「どうする家康」はご覧になつているでしょうか。江戸幕府を開いた徳川家康

公を、松本潤さんが演じています。第2話では桶狭間の戦いが描かれ、仕えていた今川義元が織田信長に討たれ、家康はピンチに陥ります。そして、自ら命を絶とうとするのですが「厭離穢土 欣求浄土（穢土を厭い離れ、浄土を欣い求め

る）」の言葉を聞いて、思いとどまりました。この舞台となったのが家康の先祖、松平家の菩提寺である愛知県岡崎市の大樹寺です。大樹寺は浄土宗の寺院で、徳川家の祖・松平親忠が初代住職に愚底という高僧を招いて1475年に建立しました。愚底はのちに京都・総本山知恩院の住職になる人物ということもあり、松平家と浄土宗の関係はとて深く、窮地に陥った家康が大樹寺に駆け込んだのは、このような背景があつたからでしょう。家康が授かった「厭離穢土 欣求浄土」はその後、旗印としても用いられました。

家康が江戸幕府初代将軍となつ

てから、東京にある増上寺を菩提寺として選び、深く縁を結びます。徳川家の家紋「三つ葉葵」が浄土宗寺院の寺紋としても用いられているのは、このご縁によるものです。家康自身も浄土宗の奥義を授かる「五重相伝」を受け、熱心な念仏信者の一面をもっていました。

家康が生きた戦国時代は、人の命を奪わなければ自分が殺されるかもしれないという、今よりも死が身近にある時代でした。そのようななかで、戦国の武士達が信仰に救いを求めたのは必然です。仏様を拜むことで死者を供養し、また命を奪つたことを懺悔したのでしよう。そして、自分の進むべき道を見出していきました。

世の中が混迷するときほど、仏様に手を合わせて自分の進むべき道を模索することが重要となります。真心を込めて仏様と向き合えば、必ず進むべき道が見えてくるはずです。家康が大樹寺での転機を得て、自分の人生を切り開いたように。

お経の意味を知ろう⑪ ～日常勤行式編～

そうがんげ [総願偈]

浄土宗では「日常勤行式」と呼ばれる式次第のつとに則って読経します。式次第に書かれているお経(偈文)について毎号解説します。

衆生無辺誓願度

煩惱無辺誓願断

法門無尽誓願知

無上菩提誓願証

自他法界同利益

共生極樂成仏道

【意識】

生きとし生けるものは数えようもなく多く、その煩惱も限りがありませんが、煩惱を断ち、すべての人をさとりに導くことを誓います。数え尽くせないほどある仏の教えを知り、理解し、さとりを体得すると誓います。私達すべてが等しくご利益を得て、共に極樂に生まれ、仏道を完成させます。

「お経ってどんなことが書かれているの？」誰しも一度はそんな疑問を持ったことがあるのではないのでしょうか。

お経はお釈迦様の教えを文章にまとめたものです。「こ」では日頃のおつとめ(勤行)で読経する式次第をまとめた「日常勤行式」を丁寧に解説していきます。

【解説】

この「総願偈」は六つの句で構成されますが、最初の四句は「四弘誓願」ともよばれ、すべての菩薩(さとりを求める修行者)に共通した願いを示しています。「すべての人

をさとりに導く」「煩惱を断

ち切る」「仏の教えを理解す

る」「さとりを得る」。実にシ

ンプルな誓いですが、そこに

は菩薩としての基本理念であ

る「自らがさとりの境地に至

る人々を救おう」(上求菩提下化衆生)との決意がにじみ出ており、意思表示ともいえます。

総願偈はこの四弘誓願に二句が加わりますが、ここで一気に浄土宗色が強まります。

この二句は法然上人に多大な影響を与えた比叡山の僧、源信が記した『往生要集』に説かれる一節で、浄土教の肝要ともいえます。四弘誓願では煩惱を断ち、仏教を学び「さとりを得る」ことが主題となりますが、さとりを得る方法は種々多様にあります。

例えば禅宗ならば坐禅をして煩惱を滅してさとる方法ですし、天台宗の千日回峰行、日蓮宗の寒行など荒行によってさとりを目指す方法もあります。浄土宗では、「念仏をとなえる」↓「阿弥陀仏にお迎えをいただく」↓「極樂で修行してさとる」という考え方ですので、「私達すべてが等しくご利益を得て、共に極

樂に生まれ、仏道を完成させます」という最後の二句がしつくりくるのです。

また、偈文では「共生」という二字が入りますが、浄土宗では「ともいき」と読み、とても大切にしています。よく「自然との共生」など「きょうせい」と読まれることが多い言葉で、近年ではSDGs(すべての人々にとってよりよい世界を目指すための持続可能な活動)などでも多用されていますね。しかし「きょうせい」の場合は今生きているこの世界での繋がり(横軸)となりますが、「ともいき」の場合は過去・未来も含めた縦軸の繋がりも含まれます。そこには先立った大切な方やご先祖様、さらには未来につながる命までもが包括されるのです。つながりのなかにある私達の命。共に慈しみあい、極樂にいる方を日々想い、命終われば再会を果たし、その命や意思は未来の誰かに繋がっていくのです。

伝えたい言葉 (10)

受け難き人身を受けて、
 遇い難き本願に遇いて、
 発し難き道心を発して、
 離れ難き輪廻の里を離れ
 て、生まれ難き浄土に往
 生せん事、悦びの中の悦
 びなり

〔一紙小消息〕 一部抜粋

〈現代語訳〉

生まれることの難しい「人」としてこの世に生まれ、
 出会うことの難しい阿弥陀仏の本願に出会い、
 起こすことの難しい仏教への思いを起し、
 離れることの難しい輪廻の世界を離れて、往生することの難しい極楽に往生することは、喜びの中の喜びです。

私はなぜこの世に生まれてきたのか—— 誰しも一度はこの問いを考えたことがあるのではないでしょう。答えは簡単にはできませんが、「私」が存在する理由を問いたくなるのが人なかもかもしれません。

仏教的には「これまでの行いの結果」という答えになるでしょう。仏教が誕生したインドでは、輪廻という考えが広く受け入れられていました。生き物は死ぬと、新しい境遇に生まれ変わり、これが無限に続くのが輪廻です。生まれ変わる境涯には、①苦しみに満ちた地獄道、②空腹が満たされない餓鬼道、③動物達の世界である畜生道、④争いが続く修羅道、⑤人の世界である人間道、⑥神様の世界である天道の六つがあり、六道といえます。

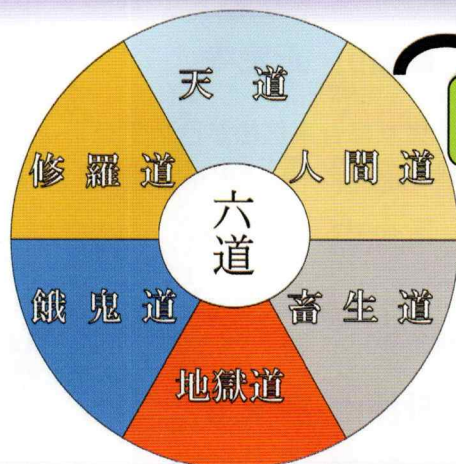
以前、スリランカのお坊さんが「人に生まれる確率は広大な砂漠に立ったとき、足の親指に乗った砂の数ほどで、それ以外に生まれ変わる確率はそれ以外の広大な砂漠の砂の数ほどだ」と言っていました。仏教では人に生まれ変わることが極めて難しいと説くのです。

法然上人は自分自身が人として生を受け、そして仏教に出会えたことを深く喜ぶべきであると言います。

人に生まれるのは難しく、さらに仏教に出会えたことは幸運だからです。法然上人は幼少期に父親を失い、戦乱や天災で多くの死に直面し、人々の暮らしがままならない姿を目の当たりにしていました。そのような悲惨な状況下で、阿弥陀仏の教えに出会い、仏教への思いを起し出家されました。そして私達に

「南無阿弥陀仏」のお念仏をと

極楽浄土



なえることで極楽浄土に往生できると説かれました。一度極楽浄土に生まれれば、輪廻転生することはありません。

私達も、人の身として生まれてきたからこそ法然上人が感じた「悦びの中の悦び」を実感できるようなお念仏に励んでいきたいものです。それはきつとよりよく生きるための指針になることでしよう。

Q&Aですぐわかる！ なるほど浄土宗

⑪

身近な仏教の疑問をQ & A
形式で説明します！

— 葬儀のあとに白木しらぎのお位牌から
黒塗りのお位牌に変えるのはなぜ
ですか？

— お通夜やお葬式などでは、白
木の位牌にお戒名を記してお祀り
します。この白木の位牌は野位牌
や内位牌うちとよばれます。位牌はそ
もそも亡くなった方を祀るために
用意します。死は突然やってくる
もので、すぐに漆で塗った位牌を
用意することはできないため、間
に合わせとして白木の位牌を用い
て供養します。



この白木のお
位牌は、大きさ
の違うものが二
本用意されるこ



白木位牌（内位牌・左）と本位牌（右）。野位牌は写
真にある白木位牌より一回り小さい。

とがあります。葬儀に引き続きす
ぐに埋葬する地域では、小さい方
の位牌「野位牌」を墓所に祀り、
大きい方の位牌「内位牌」を自宅
に安置します。現代では、四十九
日に埋葬を行う地域が多くなった
ため、野位牌を用いないことも多
くなっています。

一般的に白木の位牌を用いるの
は四十九日までとされているので、
四十九日法要を迎えるまでに、本
位牌とよばれる黒塗りの位牌を用
意されるといいでしょう。法要の
なかで住職がお位牌に「開眼かひげん」作
法を行います。開眼は魂入れとも
よばれ、お位牌を故人の魂の依より
代しろとする重要な儀式です。故人の
ことを想いながら、本位牌を選ぶ
のは大切な供養の一つです。

住職あいさつ

今年も春のお彼岸の季節が
やって参りました。冬を迎え
ますと毎年「今年の冬は寒い
な」と感じてしまうものです
が、「暑さ寒さも彼岸まで」と
いう言葉があるように、過ぎ
てしまえばあたたかい季節が
やってきます。

日本は四季があるからこそ、
一年の流れを感じる事ができ
ますね。普段の生活でも良
い事も悪い事も巡ってきます。
そんな時、四季を思い出して
みては如何でしょうか。今は
どんなに大変な状況だったと
しても、春のように穏やかな
日々が巡ってくる——。そんな
事を考えますと、今あるこ
の瞬間、生かされているとい
う事はとても有り難い事なの
ではないかと感じます。

どんな時でも、仏様やご先
祖様が私達を穏やかに見守っ
てくださっています。今ある
時をしっかりと生き、笑顔で
歩いて参りたいものです。

普照山 正定寺

■所在地
〒111-0036 東京都台東区松が谷2丁目1-2
■TEL: 03-3841-1853 ■FAX: 03-3841-1777

紫金山 静蓮寺

■所在地
〒110-0004 東京都台東区下谷1丁目12-21
■TEL: 03-3843-4034 ■FAX: 03-3843-3442

母冲山 清見寺

■所在地
〒100-2211 東京都小笠原村母島字元地122

代理墓参 承ります

コロナ禍でなかなかお墓参りにも行けない…
そんなお声が多数寄せられましたので、住職
が代理でお墓を掃除し、お参りをいたします。
ご希望の方は、直接ご連絡いただくか、冥加
料を現金書留にてご郵送ください。
後日お参りの様子をお手紙にてお送
りさせていただきます。

